

各チーム 課題解決策提示

技術と人が接点となり、イノベーションに対する学説・手法を体得しながら社会課題解決に向けたアイデアを議論する「第2回海事DATA / AIアイデアソン」が2月24、25の両日、オンラインで開催された。海事産業に関連する社会人や学生が有識者からの新たな視点を受け、チームで社会課題解決や新たなビジネスにつながるアイデアの創出・ブラッシュアップに努めた。各チームは洋上設備やVR（仮想現実）などを利用し、脱炭素化、技術伝承、高齢化などの課題解決策（新

サービス）を披露した。あるチームは洋上液化水素精製自律運航ステーション「グリーンアイランド」を提案。海水からの水素製造をコアに、風力、太陽光も使った究極のグリーンエネルギーを海洋プラットフォームで製造することなどを関係者が説明した。自律運航技術を適用し、「グリーンアイランド」をどこでも誰でも使えるようにするほか、船上から見える景色を一般に配信するなどエンターテインメント性を加えたことも紹介した。

他のチームからは、高齢化に悩む日本の産業が抱える労働人口減少による「柱」の志と技術の継承の問題に対応する「VR不滅のノウハウ」や「VRセカンドライフ」「フィジカルツイン」「脳シェアリング」「ドラクエライフ」「つながるヘルスケア&マネジメント」（海上都市）OceanX」の新サービスの発表があった。

各チーム発表前の全体講義では、日本郵船の石澤直孝NYKデジタルアカデミー学長が「今回は社会潮流、ヒトの本性、技術、ビジネスの4つを新結合することで新たな価値を創造できないか、

皆さんと考えてきた」と説明。新たな価値創造は、不確実性が高い将来に備えるためである点を強調した。

「第2回海事DATA / AIアイデアソン」は、

シッピングデータセンター（ShipDC）が事務局を務める「IOS（船のインターネット）オンラインプラットフォーム」（IOS-OP）コンソーシアムが開催した。